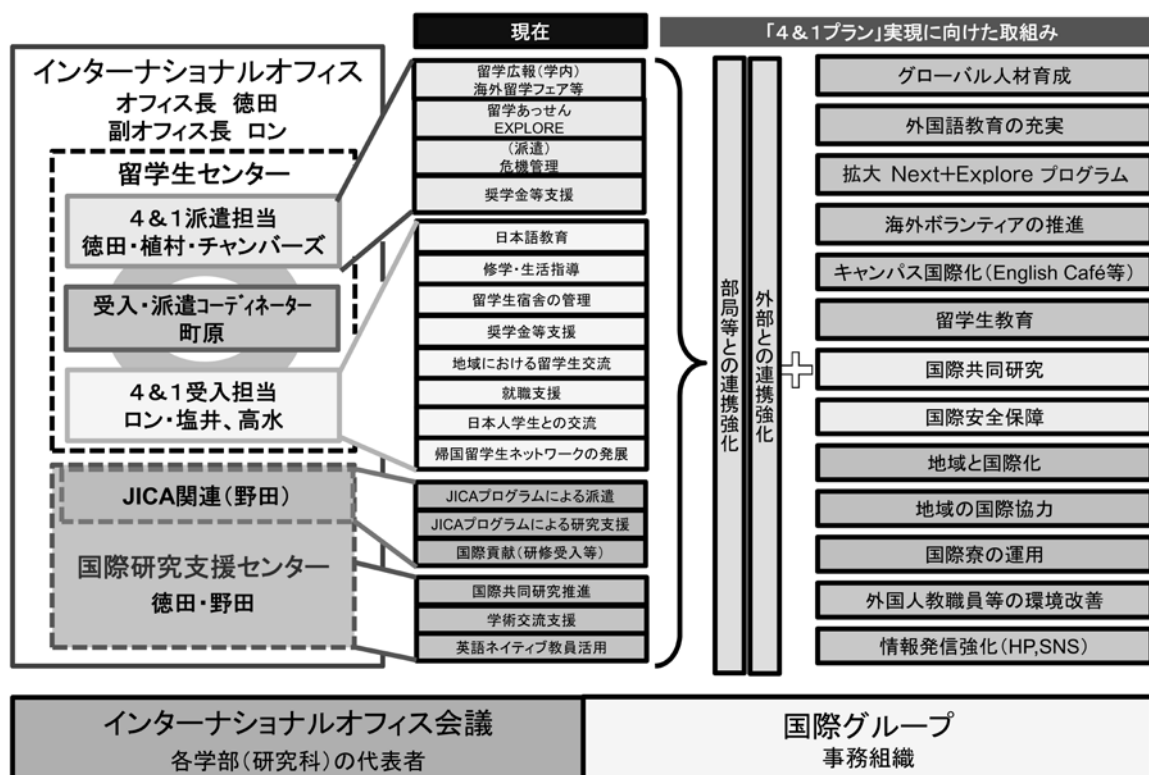


I インターナショナルオフィス全体に関わる報告

1. インターナショナルオフィス概要

インターナショナルオフィスは、香川大学の国際交流の窓口機関として、平成21年4月に設置された。情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流を推進することを目指している。

インターナショナルオフィスの体制



インターナショナルオフィスは、国際研究支援センター (Center for International Research and Cooperation)、留学生センター (International Student Center) 及びグローバルカフェセンター (Global Café Center) の3つのセンターで構成されており、事務組織の国際グループが運営をサポートしている。

さらに、各部局の代表者などからなる、インターナショナルオフィス会議が設置されており、教授会に相当する機能を持ち審議事項などを上程している。

(1) 国際研究支援センター

国際研究支援センターは、平成22年4月に設置された。大学の国際戦略に基づき、国際社会に貢献する重点的な国際的研究への支援、海外教育研究交流拠点とのネットワークの強化、部局等による国際的な学術交流の取り組み支援、部局等組織を超えた学内外研究者間の情報連携・共同研究への環境整備など、その役割・機能は多岐に及んでいる。

また、国際協力機構 (JICA)、科学技術振興機構 (JST)、日本学術振興会 (JSPS) などとの連携

のもとに、助成事業への応募などを実施する組織である。

(2) 留学生センター

留学生センターの歴史は古く、香川大学における国際交流推進を目的として、平成15年4月に学内共同教育研究施設として設置された。インターナショナルオフィスの設置に伴い、平成21年4月に新たに配置された。

留学生センターは7つの役割を担っている。

- ① 日本語教育の実施
- ② 留学生に対する日常生活上の指導・助言
- ③ 短期プログラムやスタディ・ツアーへの学生の派遣や受け入れ
- ④ 様々な方法による情報発信
- ⑤ 日本語教育や留学生教育に関する研究
- ⑥ 国際交流促進のための各種団体との協力
- ⑦ 各種の支援活動による留学生の生活の向上

このような支援を実施することにより、多くの留学生が香川大学キャンパスで学び、日本の文化や香川の生活に慣れ親しみ、勉学に集中することができる環境作りを行っていく。そして、彼らが香川大学を自らの学び舎として愛着を持ち、彼らの将来において貴重な留学として輝くものとなるようにしていく。

(3) グローバルカフェセンター

グローバルカフェセンターは、「グローバル・カフェ (Global Café)」の運用によるグローバル人材育成、また、日本人学生派遣プログラムの運用支援、外部国際交流団体・機関との連携や高大接続の場としての役割を担っている。2014年に設立されたイングリッシュ・カフェは、2019年度から名称を「グローバル・カフェ」へと変更し、英語の学習を中心としつつも中国語・フランス語・スペイン語・韓国語等の言語クラスを開講し、さらなる異文化交流活動を推進する施設として新たにスタートを切った。

(4) 2019年度インターナショナルオフィス教員

(併) オフィス長、国際研究支援センター長、教授、副学長	徳田 雅明
(併) 副オフィス長、留学生センター長、教授	ロン リム
客員教授	野田 久尚
講師	高水 徹
講師	塩井 実香
特命講師	植村友香子
非常勤教員	町原 友梨
非常勤教員	チャンバーズ アラン ジョン

2. 香川大学の国際化の基本方針と重点戦略課題

(1) 香川大学の国際化の基本方針

◎地域に根ざした国際化

- 社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。
- 大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化のニーズに応える。
- 人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

◎国際的通用性を備えた人材の育成

- 世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。
- 世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインに繋がるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。
- 海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拓き、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

◎国際化のための環境整備

- 海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。
- 国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。
- 多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者を本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

(2) 重点戦略課題

- 海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信、各学部における研究成果や研究テーマの整理データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信を行う。
- 地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献する。
- グローバル人材の育成に向けたプログラム化
 - ①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映（例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成
 - ②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
 - ③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育

や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進

- 海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整する。
- 留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに「キャンパスの国際化」を実現
 - ①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援を得ながら構築
 - ②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

香川大学では、この国際化の基本方針と重点戦略課題に沿った活動を展開している。

グローバル人材育成をより重点的に行うために、平成25年度に留学生の受け入れ促進と日本人学生の海外中長期派遣強化を定量的に示したスローガンとして「4 & 1プラン」を策定した。このプランは、平成25年度から10年後の平成34年度に外国人留学生受入400名、日本人海外派遣学生100名（3ヵ月以上）を目指すもので、第3期中期目標・中期計画においても、戦略性が高く意欲的な計画として挙げられている。この目標達成のためには、上記重点戦略課題を着実に遂行する必要がある。4 & 1プランについては、事項で詳細に紹介する。

(3) THE世界大学ランキング

海外展開をより強力に推進するために、自らの大学の世界における位置を知ることも大切であるとして、平成29年度からイギリスの高等教育専門誌「THE (Times Higher Education)」にアプライしている。このランキングは、大学ごとに「研究者からの評価」「学生1人あたりの教員数」「外国人教員比率」「留学生比率」「教員1人あたりの論文引用数」などの基準で評価した総合点を算出し、ランキング形式で発表されるものである。

令和元年9月12日に発表された「THE世界大学ランキング2020」では、香川大学は1001+にランクインした。このランキングは、世界92か国1300校以上の大学を対象としており、世界で最も影響力のある大学ランキングと言われている。教育、研究、国際性など5つの分野において、13の指標で各大学のスコアを算出しており、日本の大学は110大学がランクインした。

またTHEでは令和2年3月24日に「THE世界大学ランキング日本版2020」を発表した。このランキングでは、香川大学は総合98位にランクインした。また、総合ランキングに加え、教育リソース(80位)、教育充実度(151-200位)、教育成果(83位)、国際性(151-200位)の各分野のランキングも発表されている。

香川大学では、THE世界大学ランキングなどを国際化の指標のひとつとして、広報活動やリクルート活動に活用している。また、今後さらに国際化を活性化することにより、ランキングを上げることに繋がると考えている。

3. 4 & 1プラン進捗状況

(1) 4 & 1プランとは

香川大学のグローバル化を推進することを目指して平成25年度に設定した目標であり、10年後の平成34年度に留学生受入400名、派遣学生100名（3ヵ月以上）を目指すものである。第3期中期目標・

中期計画においても、香川大学の重点項目として挙げられている。

以下に示すように、留学生受け入れを増やすための事業として、

【1】 渡日生活支援事業（国際寮の運営、留学生を支援するサポーターやチューターの配置、日本語の授業提供など）を実施している。

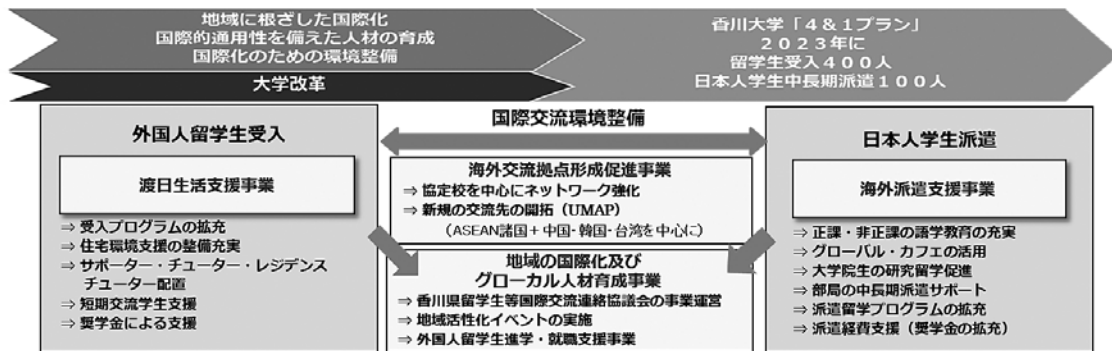
【2】 海外派遣支援事業（ネイティブスピーカーによる指導、グローバル・カフェなどでの語学力アップのプログラム提供、各種派遣プログラムの提供など）を立ち上げている。

そして【1】【2】の両方を効率よく実現するために：

【3】 海外交流拠点形成促進事業（ASEAN諸国と中国・韓国・台湾を中心に、協定校の関係強化や増加、同窓会活動の強化、広報活動の強化など）を展開している。

また、香川大学のこうしたグローバル化が地域に還元できるように：

【4】 地域の国際化及びグローバル人材育成事業（グローバル人材の地域企業への就職、地域企業との連携、地域のイベントや国際事業への協力など）を実施している。



4 & 1 プラン・ワーキンググループ（各部局より委員が参加）を年2回程度開きながら、方針や行動目標を決定し、その達成に向けて努力をしている。

(2) 4 & 1 プランの現状

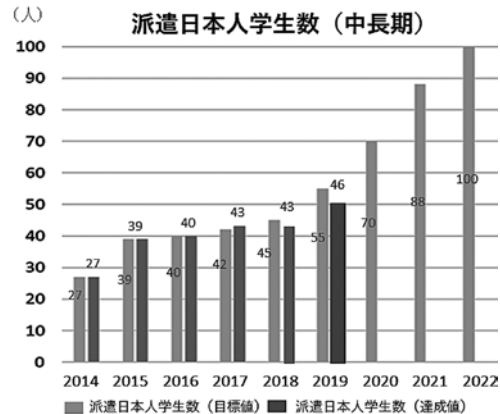
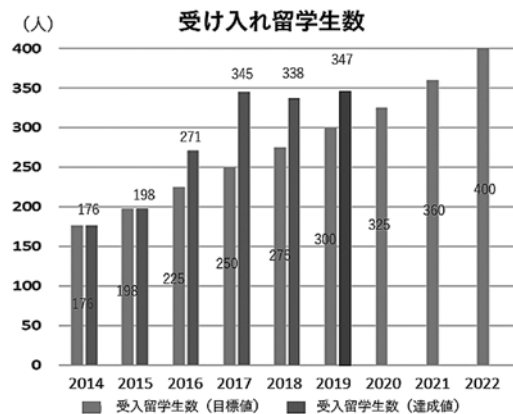
指 標	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
A：受け留学生受入数（目標値）	198	225	250	275	300	325	360
B：受け入れ留学生数（達成値）	198	271	345	338	347		
C：派遣日本人学生数（3ヶ月以上）（目標値）	39	40	42	45	55	70	88
D：派遣日本人学生数（3ヶ月以上）（達成値）	39	40	43	43	46		
KPI（目標値） = A + C	237	265	292	320	355	395	448
KPI（達成値） = B + C	237	311	388	381	393		

* 2020年以降の値は目標値である。

* KPI: Key Performance Indicator（重要業績評価指標）

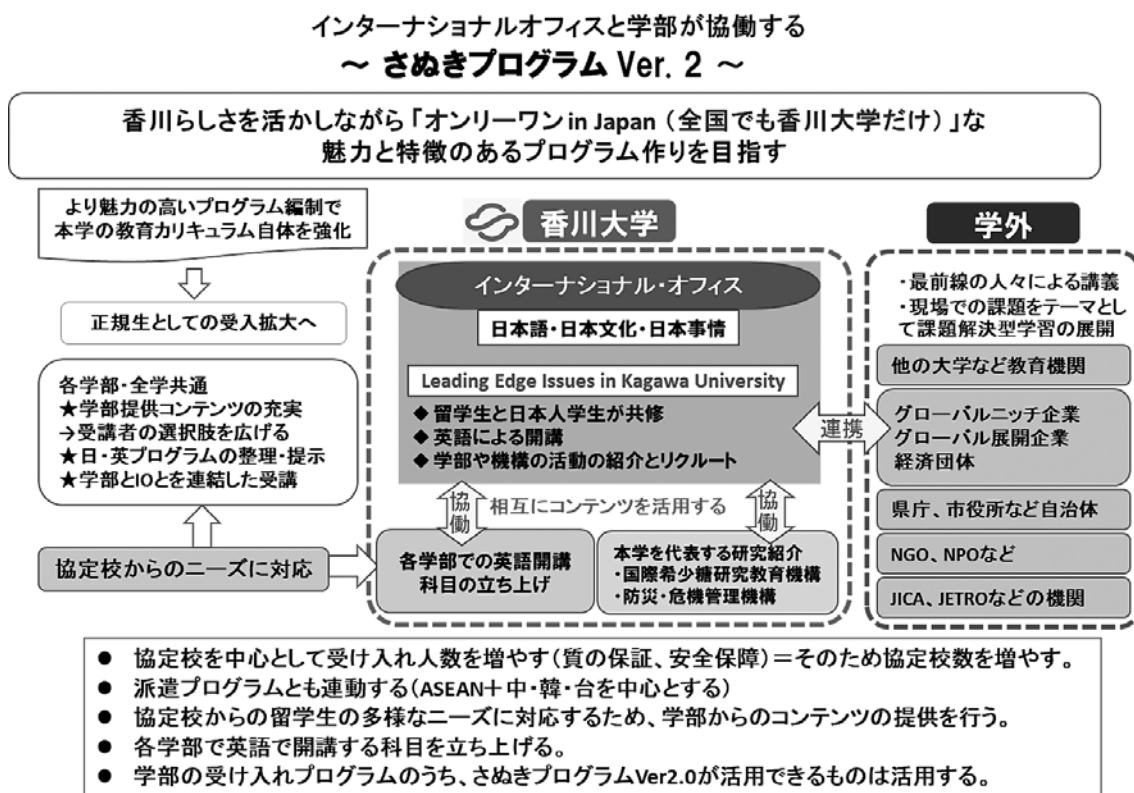
留学生受け入れの達成値は目標値を47名越えたが、派遣学生は9名下回った。

KPIとしては、目標値を38名上回り、達成できた。ただ2019年10月時点での予測調査では、留学生受け入れが370名程度、派遣学生が55名程度であり、KPIとして425名程度を予測していたのに比べると、30名程度足らなかったが、それは、2019年12月から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延の大きな影響が出たためであると考えられた。



- ◇ 2019年度（令和元年度）の目標値は、留学生受け入れ300名、派遣学生55名である。
- ◇ 2019年度（令和元年度）の達成値は、留学生受け入れ347名（+47名）、派遣学生46名（-9名）であった。
- ◇ 2019年度（令和元年度）のKPIの目標値は、300名+55名=355名である。
- ◇ 2019年度（令和元年度）のKPIの達成値は、347名+46名=393名（+38名）であった。

(3) インターナショナルオフィスの受け入れプログラム：さぬきプログラム（Version 2）

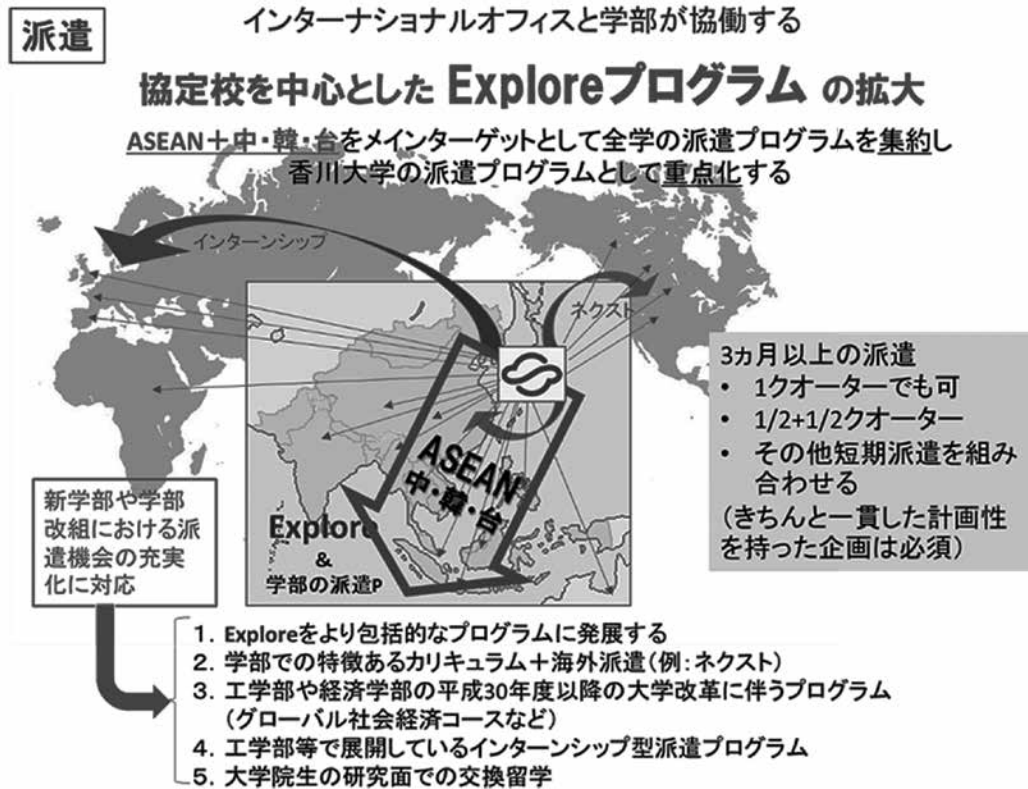


留学生センターの先生方が中心となり、インターナショナルオフィスが主催している「さぬきプログラム」は、海外の留学生が日本語・日本文化とともに、各学部で実施している内容を1セメスターの間勉強できるプログラムである。協定校を中心に春季と秋期それぞれ10名程度の学生を受け入れている。今年度前期は新型コロナウイルス感染症のために受け入れはない。

- 前期、後期に年2回開催する。
- 日本語、日本文化・事情に加えて、香川大学の特徴ある講義や見学ができる。
- 日本人と留学生が共修できる「プロジェクトさぬき」を実施する。

- 英語で提供するLeading Edge Issues in Kagawa Universityをスタートした。
- 協定校等からの留学生を増やすために重点的な宣伝をする。
- 部局の専門科目の受講へ進むためのbridge program（橋渡し）として利用する。

(4) インターナショナルオフィスの派遣プログラム



(ア) Exploreプログラム

- ブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ・ダルサラーム国）およびチェンマイ大学（タイ王国）において、1年を限度として授業の履修や研究指導などを受けることができる留学制度。
- この制度を2大学のみならず他の協定校（特にASEAN+中国・韓国・台湾地域）に拡大することを目指す。
- 語学力の向上（特に英語力）が必要。
- 大学改革との連携が必要。
- 奨学金などの支援対策強化が必要。

(イ) 短期語学研修（Study Abroad）

- 夏休みや春休みの期間を利用して、2週間から1ヶ月程度、西オーストラリア大学（オーストラリア）またはブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ）で語学研修を受けるプログラム。
- 世界の学生や教員と交友を深めることで、「生きた英語力」と「国際感覚」を高めることが出来る。
- 短期間なので、初めて海外に行く人や海外経験が少ない人にお勧め。

(ウ) 海外体験型異文化コミュニケーション（文化研修）

- 全学共通科目のひとつ。
- インターナショナルオフィス教員が引率して、8月～9月におよそ2週間実施する海外異文

化体験の入門プログラム。

- 台湾中部の嘉義市に所在する台湾国立嘉義大学に行き、台湾について現地で学ぶだけでなく、現地での学生同士とディスカッションを通して、国際コミュニケーション力を養うことができる。

(エ) トビタテ！留学JAPAN（全国コース、地域人材コース）

- 28日～2年までの期間、海外留学を志す学生を官民協働で支援する奨学制度プログラム。
- 全国コースや、地域人材コース（地域企業等でのインターンシップを組み合わせたプログラム）がある。
- 地域人材コースは、協議会（浜田県知事が会長、事務局は香川大学）が運用しており、必要な奨学金を企業から寄附していただく。

(オ) 大学生協のプログラム

- 語学研修プログラム等、大学生協の派遣プログラムと連携している
- 留学フェアなどを共同で開催している。

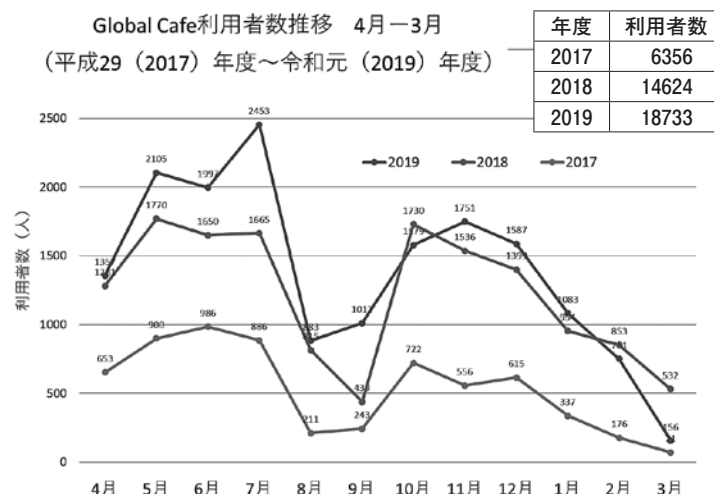
(5) イングリッシュ・カフェからグローバル・カフェへ

2014年6月に誕生したイングリッシュ・カフェは、グローバル人材育成支援を目指し英語を学習する場として日本人学生と留学生の国際交流の場となっている。2019年4月からは、英語を中心としつつも中国語・フランス語・スペイン語・韓国語などのクラスや、より多彩な異文化交流活動の展開を視野に入れ、多言語学習・多文化交流を目的とする施設として、機能をさらに高めることとした。このため、名称を「グローバル・カフェ（Global Café）」と変更し、



多言語のネイティブスピーカー等による会話指導、留学生による授業・文化紹介や異文化交流イベントなどを通じて、楽しみながら語学力を高め、異文化理解を促進することができる場となることを目指すこととなった。そして同時にこのグローバル・カフェの運営と日本人学生の海外派遣を推進する組織として「グローバルカフェセンター」を設置した。

このようにグローバル・カフェでは、種々のプログラムの充実を図り、利用学生数も増えて、2017年度の6,300名から、2018年度で14,600名へと、さらに2019年度では18,700名へと大幅に増加した。グローバル・カフェが、日本人学生と留学生との異文化交流の場、コミュニケーションの場となっていることがうかがえる。こうした学生たちの中から海外留学を希望する学生がでてくると期待できる。



4. 2019年度インターナショナルオフィス年間行事（2019年4月～2020年3月）

行事		協定の締結・更新	
4月	6日 新入留学生ガイダンス（寮ガイダンス含む）・ 歓迎会（情報交換会） 11日 春期さぬきプログラム開講式	27日	本学とサボア・モンブラン大学との学生交流プログラムに関する実施細則の更新
5月		27日	本学と第四軍医大学との学術交流協定等の更新
6月	7日 香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会 29日 第1回課外教育行事	1日	本学と電子科技大学との学術交流協定等の更新
		4日	本学と天津農学院との学術交流協定等の更新
		14日	本学医学部及び大学院医学系研究科とカリフォルニア大学マーセド校との学術交流協定の締結
7月	2日 香川県留学生等国際交流連絡協議会総会 6日 ホームビジット第1期1日目 13日 ホームビジット第1期2日目 14日 香川地域活性化グローバル人材育成プログラム 第11期生対象事前オリエンテーション（香川地域 人材育成コース協議会主催） 24日 春期さぬきプログラム修了式／外国人留学生及 びチューター等意見交換会	8日	本学農学部及び大学院農学研究科とトリノ大学農 林・食品科学部との学術交流協定の締結
		10日	本学教育学部及び大学院教育学研究科と江西師範 大学外国語学院との学術交流協定等の更新
		24日	本学とフランシュ・コンテ大学との学術交流協定 等の更新
		24日	本学創造工学部及び大学院工学研究科とキャンベ ラ大学芸術デザイン学部との学術交流協定の締結
8月	6日 香川地域活性化グローバル人材育成プログラム 第11期派遣留学生壮行会（香川地域人材育成 コース協議会主催） 8日 外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談 会&交流会 夏季 海外渡航者向け 危機管理セミナー		
9月	25日 留学生サポーター・チューターガイダンス	16日	本学創造工学部及び大学院工学研究科とサボア・ モンブラン大学ポリテク・アヌシー・シャンベ リーとの国際インターンシッププログラムに関す る協定の更新
10月	5日 新入留学生ガイダンス（寮ガイダンス含む）・ 歓迎会（情報交換会） 9日 秋期さぬきプログラム開講式	14日	本学とカンボジア健康科学大学との学術交流に関 する覚書の締結
11月	4日 留学生就職活動準備セミナー 23日 第2回留学生課外教育行事 28日 ホームビジット第2期1日目	8日	本学とブルネイ・ダルサラーム大学との学術交流 に関する覚書の更新
		18日	本学とプトラ・マレーシア大学との学術交流に関 する覚書等の締結
12月	4日 ホームビジット第2期2日目 7日 第5回香川大学英語プレゼンテーションコンテ スト 7～18日 インターナショナルウィーク 18日 学長主催外国人留学生交歓会	11日	本学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 とトリブバン大学付属サマルバンアカデミー危機 管理学研究所との学術交流に関する覚書の締結
		11日	本学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 とベルー共和国国家防災庁との災害リスク管理に おける協力についての覚書の締結
		22日	本学農学部及び大学院農学研究科とチェンマイ大 学理学部及び大学院理学研究科との学術交流協定 に関する実施細則の更新
1月	17日 企業見学会 25日 留学生のつどい		
2月	14日 秋期さぬきプログラム修了式／外国人留学生及 びチューター等意見交換会 17日 冬季 海外渡航者向け 危機管理セミナー 27日 ビジネスマナー講座	10日	地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシ アムの発展に関する一般協定の更新
		23日	本学とハルビン工程大学との学術交流協定等の更新
3月	25日 留学生サポーター・チューターガイダンス	24日	本学とサボア・モンブラン大学との学術交流協定 等の更新

5. 学長・国際ナショナルオフィス長表敬訪問

■2019年4月2日

学長表敬

来訪者：ボン独日協会（ドイツ）

Sabine Ganter-Richter会長

Marco Invernizzi氏

概要：ボン市及びボンの大学と香川大学の
今後の交流・連携に関する意見交換



■2019年5月13日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：チェンマイ大学（タイ）

看護学部学生及び教員

概要：本学医学部において国際学生交流
セミナーに参加



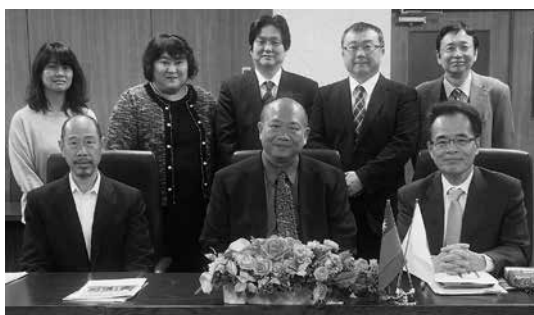
■2019年4月11日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：国立嘉義大学師範学院（台湾）

黄鴻國教授

概要：国立嘉義大学と香川大学との合同
ワークショップに関する意見交換



■2019年5月14日

学長表敬

来訪者：独立行政法人国際協力機構（JICA）

北岡伸一理事長ほか3名

概要：本学とJICAとの連携強化に関する
意見交換

■2019年5月9日

国際ナショナルオフィス長表敬

来訪者：コロラド州立大学（アメリカ）

Karen Rattenborg助教

概要：教育学部高木由美子教授との共同研究
及び香川大学生を対象にしたセミナーの
実施



■2019年6月6日

国際ナショナルオフィス長表敬
来訪者：コロラド州立大学（アメリカ）
学生及び教員

概要：本学教育学部短期交流学生受入
プログラムへの参加



■2019年6月11日

国際ナショナルオフィス長表敬
来訪者：WSB大学（ポーランド）
Piotr Spychala副総長ほか3名

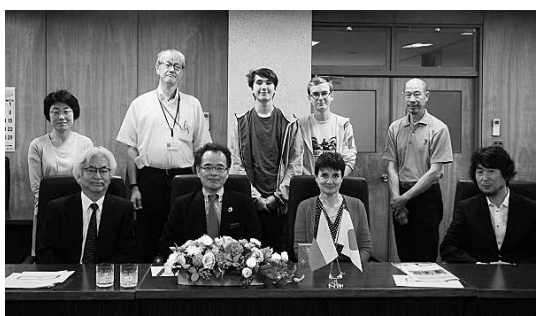
概要：学生交流に関する意見交換及び協定
更新の署名



■2019年6月14日

国際ナショナルオフィス長表敬
来訪者：南ボヘミア大学（チェコ）
学生及び教員

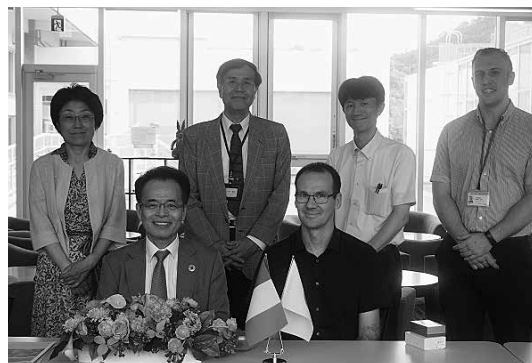
概要：南ボヘミア大学の専攻コース及び
本学教育学部との学生交流に関する
意見交換



■2019年7月1日

国際ナショナルオフィス長表敬
来訪者：サボア・モンブラン大学（フランス）
Adrien Badel教授

概要：本学創造工学部へ留学中の学生
との面談及び創造工学部・インター
ナショナルオフィス教員との意見交換



■2019年7月8日

国際ナショナルオフィス長表敬
来訪者：サボア・モンブラン大学（フランス）
Celia Merias氏、

Virginie Colombel専任講師

概要：エラスムス・プラスの教職員枠を
利用した滞在



■2019年7月8日

国際ナショナルオフィス長表敬
来訪者：チェンマイ大学（タイ）
学生及び教員

概要：本学教育学部のプログラムへの参加



■2019年7月17日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：JSTが実施する「さくらサイエンスプラン」により招聘された教員・学生ほか8名（カセサート大学／チュラロンコン大学／チェンマイ大学・タイ、ハノイ工科大学／ベトナム国家ホーチミン市工科大学・ベトナム、浙江工商大学／南京農業大学・中国）

概要：本学農学部での食品研究に関するプログラムへの参加



■2019年7月24日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：国立嘉義大学（台湾）

頼治民教授

概要：本学農学部研究室へ外国人研究者として滞在



■2019年8月21日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：海外からの短期交流学生

台湾、中国、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナム、ブラジル、トルコ、イギリス、韓国、スリランカ、ブルネイにある海外協定校等に在籍する外国人学生27名

概要：テーマ「東南アジアの若手研究者との食品安全機能解析に関する共同研究推進」



■2019年8月29日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：SUIJI国内サービ斯拉ーニング小豆島サイト参加学生14名（インドネシア、日本）

概要：本学農学部で実施するSUIJI国内サービ斯拉ーニング小豆島サイトに参加



■2019年9月26日

学長表敬

来訪者：トゥール大学（フランス）

Marc Desmet副学長ほか2名

概要：トゥール市・トゥール大学の紹介及び協定締結に向けた意見交換



■2019年10月28日

学長表敬

来訪者：在京都フランス総領事
ジュール・イルマン氏

概要：本学とフランスの交流に関する
意見交換



■2019年11月25日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：JICA草の根技術協力事業「移動式
胎児心拍計導入による周産期死亡
改善事業」により招聘された医師・
看護師など12名（タイ）

概要：本学医学部附属病院、小豆島中央
病院等での講義及び見学



■2019年12月4日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：JSTが実施する「さくらサイエンス
プラン」により招聘された教員・
学生ほか10名（チェンマイ大学・
タイ、健康科学大学・カンボジア王国、
プトラ・マレーシア大学・マレーシア、
175軍医病院・ベトナム社会主義
共和国、ブルネイ・ダルサラーム
大学・ブルネイ・ダルサラーム国）

概要：テーマ「香川で確立した学際的な
生活習慣病の予防・管理戦略の研修」



■2020年2月3日

インターナショナルオフィス長表敬

来訪者：国立嘉義大学（台湾）

学生及び教員

概要：本学教育学部学生交流プログラムへの
参加



6. インターナショナルウィーク 2019年12月7日（土）～12月18日（水）

本学における国際交流活動を周知し、海外留学への関心を高めることを目的に、グローバル・カフェにて各種イベントを行い、生協食堂にて大学生協と合同で留学フェアを開催した。また、生協の協力を得て、全キャンパスでハラル食を提供する「ハラルフードウィーク」を実施した。

①12月7日 第5回English Presentation Contest

留学経験の有無等を勘案して参加者を2グループに分け、グループごとに英語による発表を競った。発表者と演目は以下のとおりである。

グループ1	題 目
教1	Aloha Spirit
農2	Keeping High Motivation
教1	What I learned from My Part Time Job
創工1	Let's Wander the Streets
教2	Lima Coffee and Youth Project
教1	Touching on Okinawa Culture
教2	My Opinion about Tobacco Products
農2	The Relationship between Ozoni and the Region
教3	The Reason I Like Phonetics
経	Taiwanese Foods that Surprised the World
グループ2	題 目
医1	Strike while the Iron is Hot
教2	Which One Do You Like?
医1	My Rules
経1	Are we in the Matrix?
医1	Capybaras, their Charming Lifestyle
工 D2	English Craze in China
医1	Marugame Uchiwa - a Traditional Craft in Kagawa
教3	First Name First? Last Name First?
経1	What is an American Joke?
医1	Life with Programming
教3	How to say "I love you" to Japanese people
経4	Generation Unlimited
留セ	Pick Up Lines Do Work

発表後は構成、表現力、発表の仕方など、5つの項目についてグループごとに審査が行われ、それぞれ一等・二等1名ずつ、三等2名に賞状と賞品が贈られた。コンテストの後には交流会が開かれ、審査を務めた教員も参加して歓談した。

今回、初めての試みとして11月に英語俳句コンテストを実施した。その入賞者への受賞式を合わせておこなった。

②12月9日 クイズ（三木高校インターンシップ生考案）

毎週月曜の昼休み時間に、グローバル・カフェで英語によるプレゼンテーションを行っているが、その後の時間を使って、三木高校生考案のクイズを行った。グローバル・カフェの「カフェ」にちなんで、クイズに正解すると果物のイラストカードがもらえ、紙の台紙に貼ってフルーツパフェが作れる、という趣向である。クイズの内容は諸外国に関する三択問題で、知っているようで知らない事項もあり盛り上がった。



③12月10日 コンテスト入賞者によるプレゼン披露

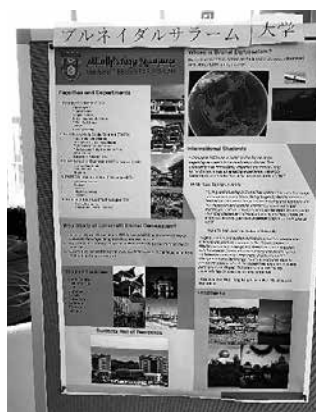
12月7日に実施した英語プレゼンテーションコンテストの入賞者たちが、プレゼンを披露し、昼休みの時間帯で学習ラウンジに集まっている学生たちにも聞いてもらうことができた。

④12月11日 大学生協との合同留学フェア

5月に初めて、大学生協との合同留学フェアを開催したのだが、その第2弾を生協食堂にて開催した。募集の始まったEXPLORE留学を中心に、トビタテ！留学JAPANの派遣生も参加して留学の紹介を行った。

⑤12月12日 留学生による協定校紹介ポスターセッション

さぬきプログラムの留学生を中心に、自分の在籍する大学について紹介するポスターセッションを行った。作成されたポスターはインターナショナルウィークの期間、グローバル・カフェに掲示した。



⑥12月13日 異文化紹介イベント「フィンランドのサンタさん知ってる？」

香川フィンランド協会との共催ということで、フィンランドに約20年暮らしたことのある植村講師が、フィンランドのクリスマスやクリスマスにまつわることを話した。また、フィンランド協会会員から、フィンランドの著名なテキスタイルデザイン・マリメッコについて話があった。

⑦12月18日 学長主催外国人留学生交歓会

香川大学に留学中の外国人学生が一堂に会する場として、例年12月に開催されている。令和元年度も、留学生や外国人研究者、国際交流団体関係者など200人を超える参加者を迎えてホテルパールガーデンにて開催された。留学生が司会進行を担当し、ベトナム、タイ、インドネシア、バングラ

ディッシュの国別留学生たちによるパフォーマンスが披露された。



7. 危機管理セミナー（FD・SD）

2013年度に発足した「4 & 1 プラン」による日本人学生の派遣強化に伴い、学生のリスク管理のため、学生及び教職員を対象としたセミナーを年2回実施している。平成31年度/令和元年度は、2019年8月8日（木）と2020年2月17日（木）に、遠隔テレビ会議システムを利用し、幸町、工学部、農学部キャンパスを接続して実施、前期は約70名、後期は約80名が参加した。

夏季開催時は第1部に「海外研修／留学生のための海外リスクマネジメント」と題し、ジェイアイ傷害火災保険株式会社リスクソリューション担当の城戸 克斉氏に出国前の準備、渡航中の注意事項や行動について、実践的な対応方法や予防についてお話いただいた。第2部では、香川県立中央病院感染症科 横田 恭子氏を招き、渡航前・後の感染症対策についてお話しいただいた。

また、今年度、保険の見直しにより、令和2年度2月より日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（以下：EAJ）のOSSMA Plusと包括契約を行った。

その後の冬季開催時は、第1部に夏季と同様、香川県立中央病院 感染症科 横田 恭子氏を招き、渡航前・後の感染症対策についてお話しいただいた。第2部では、EAJ江見 裕明氏を招き、トラブルや危険からの予防・対策について説明をしていただいた。



8. グローバル・カフェ

(1) 新体制

2019年度は、名称を「イングリッシュ・カフェ」から「グローバル・カフェ」へと変更し、同年4月1日付で、グローバル・カフェは、インターナショナルオフィスのグローバルカフェセンターが運

用する組織として位置付けられた。イングリッシュ・カフェからグローバル・カフェへの名称変更に伴い、多文化・多言語の取り組みを強化した。また昨年度大幅に伸びた利用者数をさらに増やすことを目指した。

(2) 2019年度の概要

昨年度に引き続き、4月の新入生ガイダンスでの登壇で活動紹介を行い、SNSや公式ホームページ等で広報活動を活発に行った。また、学生が継続的に授業に参加することで、授業の質を維持し学習効果を確保するため申込制を導入し、非常に多くの学生が感じている「入りにくさ」（2018年度7月実施のアンケート結果）を軽減し、学習ラウンジも含めてグローバル・カフェとして機能させることを方針としてクラス・イベントを実施した。

(3) 2019年度の新規実施内容

1. 言語クラスを6つ新設

前期に新設したフランス語・中国語・スペイン語・ドイツ語に加えて、後期は、韓国語・タイ語クラスを新設。フランス語は、香川日仏協会との連携で開講。講師は、フランス語とスペイン語は本学非常勤講師が担当し、その他の言語クラスは、留学生がGlobal Café Assistant Teacher（グローバル・カフェ アシスタント・ティーチャー）として、初学者でも親しみやすいように簡単な日常会話や発音を教えるクラスを担当した。

2. 「グローバル・イベント」の実施

毎月、様々な国の文化を紹介する参加型イベントを実施した。

日本人・留学生合わせて平均約20名の学生が参加した。それぞれの国の文化の一端に触れながら日本人学生と留学生が交流し、グローバル・カフェが多文化交流の場であることを示すことができた。



- ① 6月27日（木） ピニャータ祭り（メキシコ）
- ② 7月16日（火） 七夕イベント（日本）協力：ICES
韓国近代文化講座（韓国）協力：香川県国際交流員チャン・ミョンフンさん
- ③ 7月18日（木） ショコラデンエッセン（ドイツ） 協力：留学生Sartipi Sabaさん
- ④ 10月17日（木） ロイクラトン祭りガトン手作り体験（タイ）
協力：留学TANPATTANARAT RATTAWANさん
- ⑤ 10月31日（木） ハロウィン・パーティー（欧米）
協力：トビタテ！留学JAPAN派遣学生 片山健太さん他
- ⑥ 11月13日（水） ユンノリ大会（韓国）協力：香川県国際交流員 チャン・ミョンフンさん
- ⑦ 12月19日（木） クリスマス・パーティー（全国）
協力：トビタテ！留学JAPAN派遣学生 片山健太さん他
グローバル・カフェ・ポイント抽選会
協賛：徳田雅明インターナショナルオフィス長
- ⑧ 1月22日（水） 畳べりを使った樹脂細工手作り体験（日本）（協力：香川大学SPOT）

3. 他部局・外部団体との連携

- ①香川県国際課：香川県国際交流員チャン・ミョンフン氏を派遣、7月16日（木）韓国現代文化紹介講座、11月13日（水）ユンノリ（韓国のすごろくゲーム）大会を開催。
- ②教育学部：バテン教授の前期英会話クラスをグローバル・カフェ教員が協力して実施。
- ③香川日仏協会：フランス語クラスを実施し連携を強化。
- ④経済学部（NEXTプログラム英語選択学生）：大学教育基盤センターGerardine McCrohan准教授やIan Willey准教授がグローバル・カフェで履修授業を実施し、英語プレゼンテーションコンテストやTOEIC S&Wなどへの参加を促している。
- ⑤経済学部（NEXT中国語選択学生）：高橋明郎教授によるグローバル・カフェでの中国語クラス監修。
- ⑥経済学部：宮島美花教授によるグローバル・カフェでの韓国語クラス監修。



4. 英語俳句コンテストの実施

大学教育基盤センターIan Willey准教授の協力・指導の下「英語俳句オリエンテーション」「英語俳句コンテスト」を実施。日本の俳句から派生した英語俳句は、日本人学生・留学生双方が楽しむことができ、俳句の普遍性と言語別の特徴を理解しつつ参加するイベントとして実施することができた。なお、審査員はWilley准教授とその知人で英語俳句雑誌の編集者Susan Antolin氏に協力いただいた。応募者は130名で、入賞者3名、審査員特別賞10名が選ばれた。好評だったため来年度も継続する予定。

(4) 年間イベント一覧

- 7月17日（水） TOEIC Speaking & Writingテストのガイダンス
協力：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
- 8月7日（水） オープンキャンパス（スタンプラリー）
- 10月9日（水）・23日（水） 英語俳句オリエンテーション
- 10月16日（水） 留学生対象サークル紹介イベント
- 10月23日（水）～11月10日（日） 第1回英語俳句コンテスト
- 12月7日（土）～19日（木） インターナショナルウィーク
- 12月7日（土） 第5回香川大学英语プレゼンテーションコンテスト
第1回英語俳句コンテスト表彰式
- 12月22日（日） TOEIC Speaking & Writingテスト



(5) グローバル・カフェを会場とした主なイベント一覧

- 4月15日（月） モナシュ・カレッジ説明会（インターナショナルオフィス）
- 5月28日（火） サボア・モンブラン大学セルゲイ教授の授業（経済学部）
- 8月6日（火） 「トビタテ！留学JAPAN」壮行会（インターナショナルオフィス）
- 10月28日（月） フランス総領事来訪（香川日仏協会招致）
- 11月27日（水） 日中植林・植樹国際連帯事業訪問団来訪（経済学部高橋教授招致）

(6) 高大連携としてのグローバル・カフェ活用状況（高校生訪問）

今年度は、合計37件約1,082名の県内外の高校生、教師及び親権者等がグローバル・カフェを施設訪問した。来訪者には、グローバル・カフェのチラシを手渡し、パワーポイント等でグローバル・カフェの施設や実施しているクラス・イベント等の紹介等を行った。

(7) 2020年度について

2014年度以降「利用する学生を増やし留学への垣根を低める」という目的の下運営されてきたが、来年度からは「派遣強化につながるプログラムを充実させる」という第2フェーズを開始する。

また、学生やサークル主体のイベントを増やし、グローバル・カフェの存在を周知するとともに、学生によるアイデアで自主的な学修や文化交流を促したい。留学生にも企画のコアメンバーとして参加してもらい、インターンシップとして証明書を発行する。



9. JICAとの連携

インターナショナルオフィス 野田久尚

2019年度におけるJICAとの連携は、JICAから本学への出向職員を中心に、JICA四国センターと連携して以下の業務を行った。

(1) 教育業務

- ①全学共通科目「国際協力論」
- ②さぬきプログラム関連講義「初級日本事情b」「プロジェクトさぬき」
- ③連合大学院「Global Leaders Seminar」出講

(2) 国際交流業務

- ①JICA事業に関する本学関係者とJICAとの連絡調整
- ②上記事業提案等に対する助言

- ③JICA事業で受け入れた研修員等への指導及び支援
- ④途上国への留学を希望する学生への助言指導
- ⑤安全情報の収集と提供
- ⑥トビタテ！留学JAPAN「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」における地域コーディネーターとしての協力

(3) JICAとの協働事業

①草の根技術協力

「カンボジア国カンダスタン郡の衛生教育改善のための学校保健室体制の構築プロジェクト」
(実施期間2017.2.28-2020.2.27)

カンボジアの学校保健状況の改善を目指し、カンダスタン郡の学校保健指導者の育成と学校保健室モデルの構築を行うもの。2019年度は引き続き本邦研修を受けた現地教育省関係者並びに学校関係者に対するフォローアップセミナーの開催、保健教育教材の作成・印刷、衛生状況改善のためのトイレ、手洗い場の建設工事を実施したほか、医療技術等国際展開推進事業との共催により、2019年12月に学校現場における内科検診・歯科検診のデモンストレーションも実施した。

2020年2月4日、現地にて閉講式を実施して3年間の協力を終了した。



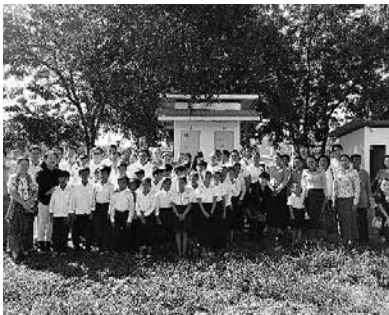
本プロジェクトで作成したテキスト



教員向けセミナー



歯科検診デモンストレーション



本プロジェクトで建設したトイレ



2020年2月4日に開催された閉講式

②青年研修「アフリカ（仏語）地域保健医療実施管理」
(13名、受入期間 2019年10月2日～10月17日)

将来のリーダーとして地域保健医療体制の課題解決を担う青年層に対し、香川県における地域保健医療の現場視察等を通して、地域保健医療サービスの実践的な方法論を理解することを目的とした研修を実施。



青年研修（そごうクリニックにて）

③日系研修「小規模食品ビジネスの開発」（5名、受入期間 2019年12月1日～12月26日）

中南米地域の日系社会に対し、日本の歴史・文化に根差した様々な制度や取り組みを伝えることを目的とし、今年度はブラジル及びアルゼンチンの5名の研修員に対して、日本食についての研修を行った。



日系研修（うどん作り実習）

④長期研修「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）」

第4バッチ2名（大学院農学研究科、受入期間 2017.9.6-2020.3.31）

第6バッチ1名（大学院工学研究科、受入期間 2019. -2022.3.31）

10. 留学生宿舎

インターナショナルオフィスでは、現在3棟の留学生宿舎を管理・運営している。

大学施設としては香川大学留学生会館を平成3年から運用しているが、平成25年度及び平成28年度より民間宿舎の借り上げを開始して受入留学生のニーズに応えるようにしている。

各宿舎では、新生が入居する4月と10月に全入居者を対象とした入居者ガイダンスを実施している。また、学生主体による歓迎会や季節の行事（そうめん流し）も実施している。

(1) 宿舎の概要

①香川大学留学生会館

住 所	高松市屋島中町
最大入居人数	32人
居室形態	個室
入居率	84.1%

特徴 幸町キャンパスから8kmに位置し、香川大学屋島寮（男子寮）に隣接している。平日は管理人1名が常駐しており、管理人不在時の対応として、日本人学生2名をレジデンスチューターとして入居させている。主たる入居対象者は短期留学生としている。

②香川大学花園寮

住所	高松市花園町
最大入居人数	15人
居室形態	個室
入居率	87.8%

特徴 民間企業が单身用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから2.4kmに位置している。日本人学生1名をレジデンスチューターとして入居させている。

③香川大学上之町国際寮

住所	高松市上之町
最大入居人数	46人
居室形態	2人で1戸をシェア
入居率	86.4%

特徴 民間企業が世帯用宿舎として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから3.7kmに位置している。留学生の生活をサポートすること、留学生とともに生活することで日本人学生の国際性を育てることを目的に、2人で1戸をシェアする「混住寮」とし、23戸46名分の居室と、共有スペースを設けた。各戸には、2人が共有で使用できるダイニング、キッチン、シャワールーム等があり、個室も備えている。

(2) 地域との交流活動

2019年6月22日（留学生会館及び花園寮）に、「そうめん流し」を実施した。これは、学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また、日本文化を体験することを目的として毎年実施しているものである。

上之町での実施も予定していたが、悪天候により中止となった。

今回、地域住民の参加が得られず、本来の目的を達成しきれなかったが、学生間のより良い関係を築く一助となった。とはいえ、地域住民の参加を促進することは今後の課題として、引き続き取り組んでいきたい。



11. サボア・モンブラン大学・中東工科大学スタッフトレーニング

2019年度には、協定校であるサボア・モンブラン大学（フランス）、中東工科大学（トルコ）より4名の教職員を受け入れた。

(1) サボア・モンブラン大学

2019年7月8日～7月12日の5日間、インターナショナルオフィス及び国際グループにおいて、サボア・モンブラン大学（フランス）の国際交流部署のCélia Merias（セリア・メリアス）氏、IUTシャンペリーのVirginie Colombel（ヴィルジニー・コロンベル）専任講師の受入れを行った。本学とサボア・モンブラン大学は大学間の学術交流協定及びEUの交流助成プログラム「エラスムス・プラス（Erasmus+）」にかかる協定を締結しており、今回お二人は、エラスムス・プラスの教職員枠（Staff

Mobility for Training) を利用して、本学に滞在した。5日間のプログラムでは、双方の大学の紹介、インターナショナルオフィスが実施する留学生受入プログラム「さぬきプログラム」の紹介、創造工学部イングリッシュ・カフェでの発表、農学部、経済学部、グローバル・カフェの訪問、企業訪問及び環境省の協力のもと瀬戸内海国立公園（屋島・五色台）でのフィールドトリップが実施された。



記念撮影



グローバル・カフェのフランス語講座にて

(2) 中東工科大学

2020年1月27日～1月31日の5日間、インターナショナルオフィス、国際グループ及び学生生活支援グループにおいて、中東工科大学（トルコ）において寮の運営の業務を担当しているSibel Atay Erdogan（シベル・アテイ・エルドガン）氏、建築関係の業務を担当しているElvan Odabasi（エルヴァン・オダバシ）氏の受入れを行った。サボア・モンブラン大学と同じく、本学と中東工科大学は大学間の学術交流協定及びエラスムス・プラスにかかる協定を締結しており、今回Sibel Atay Erdogan氏の本学滞在は、エラスムス・プラスの教職員枠を利用したものであった。5日間のプログラムは、若草寮、屋島寮、留学生会館の見学、学生寮についての意見交換、図書館の見学、協定の主管である農学部への訪問及び中東工科大学からの留学生との交流、さぬきプログラムの紹介に加えて、創造工学部に協力を得て、香川県とさぬきうどんの地質学的な関係の紹介、学生・教職員へ向けたお二人による中東工科大学・トルコの食文化等の紹介及び環境省にご協力いただいたフィールドトリップ等多岐にわたった。



歓迎会



中東工科大学・トルコの食文化の紹介

12. 三木高校インターンシップ受入れ

インターナショナルオフィス 植村友香子

インターナショナルオフィスでは2017年度から三木高校生をインターンシップ生として受入を行ってきた。

三木高校（生徒数435名）は香川県立の単位制高校として1996年に三木町に開校した。文理学科と総合学科の2学科から成っている。文理学科では5教科を中心に学力を磨くことを重視し、1年次後半から文系と理系に分かれて学習する。総合学科は「国際」「流通」「福祉」の3系列に分かれ、系列ごとの特徴的な科目を組み合わせさせた時間割が設定される。インターナショナルオフィスで受け入れている生徒は総合学科の生徒である。

2017年度と2018年度は1年生を対象に、7月に以下のような数日間のプログラムとして実施し、国際寮でのイベント及びさぬきプログラム修了式の補助を中心に活動を行った。

2017年度 参加生徒6名（1年生）	
7月22日（土）	留学生会館イベント（そうめん流し）
7月25日（火）	学内施設見学、学生と懇談、イングリッシュカフェでの作業
7月26日（水）	さぬきプログラム修了式・フェアウェル交歓会
2018年度 参加生徒7名（1年生）	
7月21日（土）	上之町国際寮イベント（そうめん流し）
7月23日（月）	学内施設見学、ハラル紹介ポスター作成
7月24日（火）	チェンマイ大学生と交流、ハラル紹介ポスター作成等
7月25日（水）	さぬきプログラム修了式・フェアウェル交歓会

2018年度の活動ではハラルをテーマに、イスラム圏からの留学生や、学生プロジェクト「ハラリシ」のメンバーにも参加してもらい、高校生と交流しながら活動をおこなった。また、三木高校で10月に実施されたインターンシップ発表会に植村が出席し、様々なインターンシップに参加した生徒たちの発表を聞いた。ただ、発表会ではインターナショナルオフィスのインターンシップに関しては、参加7名全員ではなく、1名のみでの発表であり、活動がどの程度の学修効果をもたらしているのかは把握できない感があった。

2019年度に関しても三木高校からの受入依頼があり、インターナショナルオフィスとして対応することとした。その際、担当の廣林研史教諭からは以下のような要望が示された。

- ・1年生ではなく2年生の活動とする。（進路とのつながりを意識）
- ・単発のイベント的な参加ではなく、通年で継続的に実施する。（可能なら月1で）
- ・インターンシップレポート作成にあたって、インターンシップ先の担当者との対話を通して内省を深め、AO入試に対応できるレベルをめざす。
- ・高校側教員も同席したい。

要望のうち、「できれば月に一度、活動を行って継続的に実施したい」という点を踏まえ、令和元年度は以下の活動を計画し、実施することとした。活動内容は国際グループが実施している、留学生に関する行事およびグローバル・カフェでの行事を軸に、三木町にキャンパスのある農学部の協力も

得て設定した。参加生徒は高校側での選考を経た4名（全員女子）である。

2019年度 参加生徒4名（2年生）	
8月19日（月）	オリエンテーション
8月21日（水）	農学部SS日本語授業見学・補助【農学部】
8月26日（月）	留学生会館見学・業務補助・入居者と懇談【留学生会館】
10月5日（土）	新入留学生ガイダンス（準備、撤収）・歓迎会参加
10月31日（木）	「インターナショナルウィーク」のための企画案提出期限
11月12日（火）	農学部ムスリム圏の学生と対話【農学部】
12月7日（土）	English Presentation Contest準備手伝い・見学
1月8日（水）	作文コンテストの文集表紙案提出期限
1月25日（土）	留学生の集い設営等手伝い・懇親会での交流
3月30日（月）	最終報告会【グローバル・カフェ】

このほかに農学部キャンパスでの留学生の様子を知る一端として、11月3日（日）の農学部収穫祭に来て見学するように勧めた。また、イスラム圏の文化に対する認識を深めるために『となりのイスラム』を読んで感想文を提出する課題を課した。

以上の活動を踏まえて、3月10日に最終レポートの検討会をインターナショナルオフィスで実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う高校休校措置のために中止せざるを得ず、生徒たちから提出されたレポートに、インターナショナルオフィス教職員がコメントを付して返却する対応を取った。

最終報告会は規模を縮小してグローバル・カフェにて実施した。生徒2名が発表し、インターナショナルオフィス教職員との質疑応答を行った。

英語で行った冒頭部を含め、活動からの学びを深く内省した発表に対し、高く評価する声があがった。三木高校の廣林教諭からはこの活動を通して生徒たちが著しい成長を見せたことに対する感謝と、2020年度も引き続きインターンシップの実施を希望する旨が表明された。

生徒たちには徳田オフィス長より、修了証書が授与された。



最終報告で結果発表



徳田オフィス長を囲んで



日本語授業のうちあわせ



英語プレゼンテーション
コンテストの参加者たちと



懇親会で留学生と話す



オリエンテーション



新入留学生ガイダンスの会場準備



留学生会館の寮母さんから講義